

あいのり

Monthly

2026.4.30

4月のマーケット概要

引き続きイラン情勢が最大の注目材料となりました。停戦中の交渉は期限なく延長され、現在も難航しています。大きな動きとしては、4月中旬に米軍がイラン関連を狙う海上封鎖措置を行ったことで、イランは外貨獲得手段がなくなることに加え、輸出できない原油の貯蔵余力が限界に近付いているとのことです。

マーケットは、このようにイラン情勢が明確な方向感の出ないまま、またホルムズ海峡実質封鎖が長期化した場合想定される甚大な影響にも関わらず、米株式市場などは、3月末を底に大きく反発し、米S&P500なども史上最高値を更新しました。これは、主にマーケットが次の要因で楽観的になっているからと推測します。①米国は本音では更なる対立は望んでいないこと、②戦費は今のところ軽微で財政悪化につながるほどではないこと、③戦争が米経済に与える影響は殆どなく、企業業績は引き続き好調であること④大きなIPOを6月のスペースXやそれ以降も控えていること、などです。

従いまして、今後のイラン情勢がこれまで以上に想像を超えるニュースが出ない限りマーケットは3月以上の下落はないと考えます。月末にFOMCが開催され、予想通り政策金利は現状維持でしたが、4名（内、緩和バイアスを3名）が反対するなどFOMCメンバーの内部では意見が分かれています。また現パウエル議長は任期終了後もメンバーを辞任しない意向を示しました。

日本については、米半導体（SOX）指数が相場全体を牽引する中、半導体関連の多い日経平均が6万円を一時突破するなどTOPIXに比べ堅調な相場展開になりました。日銀金融政策決定会合では、予想通り現状維持となりましたが、景気下落と物価上昇の双方のリスクを睨みつつ、利上げスタンス継続のタカ派の姿勢を堅持しました。月末に為替介入と思われる動きあり、ドル円は高値160.72円から155円台まで円が急騰する場面がありました。当局は160円超えの円安を牽制している姿勢が明確に見えました。

このような状況の中、弊社ファンドはマーケットが一旦底を見た可能性があるかと判断し、日米株の新ファンドを中心にポジションをとり、また一方でゴールドの割合を減らすなどポートフォリオの入れ替えを行いました。最大のリスクはやはりホルムズ海峡の実質封鎖が長期化することですが、マーケットは最悪のシナリオを既に織り込んでおり、さらに状況がエスカレートしない限り、この話題は徐々にAIなど次のトピックに移ることをメインシナリオとしています。引き続きマーケットを注視の上、流れに対応したポートフォリオにしていきたいと考えます。



左記のQRコードよりXアカウントにアクセスいただけます。
パリミキアセットマネジメント【公式】
@PM_Asset

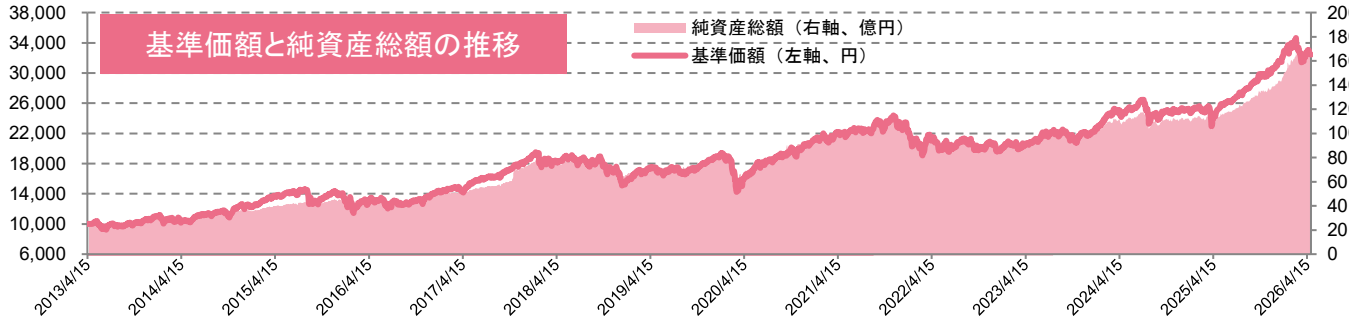
(2026年5月1日)

パリミキアセットマネジメント
CIO
宇野 隆一郎



PARIS MIKI ASSET MANAGEMENT

コードモファンド
変幻自在ずーっとおまかせ



期間別騰落率 (%)

1か月	3ヶ月	6ヶ月	年初来	1年	3年	5年	10年	設定来
2.84%	-3.78%	9.25%	3.09%	29.36%	58.44%	46.76%	145.04%	224.51%
					(複利年率) (16.53%)	(複利年率) (7.97%)	(複利年率) (9.37%)	(複利年率) (9.44%)

コードモファンド概況

基準価額	32,451円	設定日	2013年4月15日
純資産総額	16,245百万円	信託期間	無期限
ボラティリティ(1年)	8.52%	決算日	毎年2月25日 (休業日の場合は翌営業日)
投資信託財産の構成比率	パリミキ・ファミリーオフィス・マザーファンド: 99.72% 現金等0.28:% (合計: 100.00%)		

コードモファンドにかかわる費用

運用管理費用 (信託報酬)	年1.10% (税抜1.00%) マザーファンドの組入れ投資信託証券も含めた実質的な負担: 年1.75±0.5% 程度 (税込)
---------------	---

パリミキ・ファミリーオフィス・マザーファンド ※2025年9月1日設定

【4月の運用コメント】

基準価額は月間で+2.92%となり、年初来で+3.47%となりました。
(1年リターン: 29.36%、ボラティリティ(1年): 8.52%、シャープレシオ: 3.36) ※コードモファンド

個別ファンドの騰落率については、上昇に寄与したのは、トリゴンが騰落率で+12.00%、コムジェスト世界が同+8.95%、モーラントが同+3.23%、シンプレクス中計が同+7.04%などでした。下落で影響したのは、ピクテ・ゴールドが騰落率▲0.47%などでした。

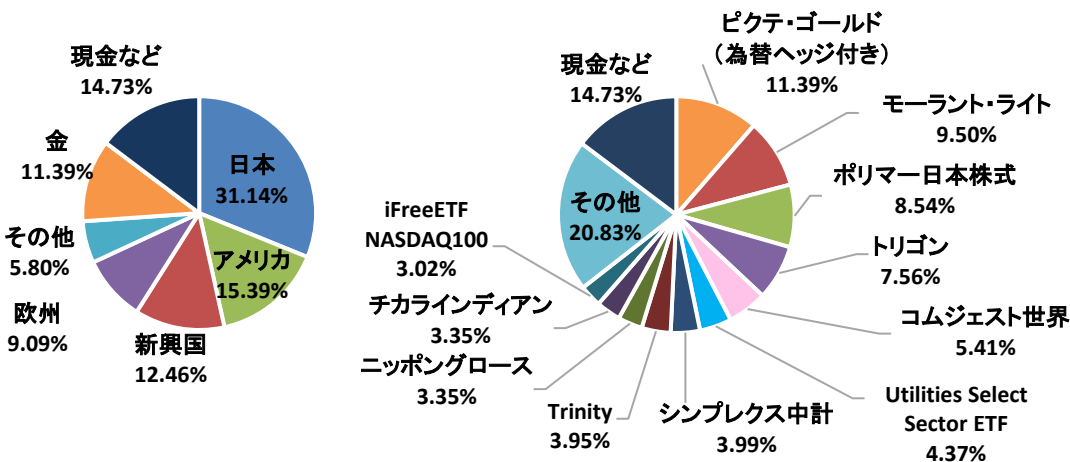
4月の売買は、新規組入れファンドのポリマー日本株式とグローバルなストックピックを行うトリニティ・ストリートを合計約13%購入し、その他ETFを新規に組み入れました。一方、ピクテ・ゴールドなどを一部売却しました。これによりキャッシュ比率は14.73% (前月比約▲17%) となりました。

為替が、対ドルで約0.5円 (+0.32%)、対ユーロでは約4円 (+2.16%) 円安へ推移したことにより、ポートフォリオのパフォーマンスをヘッジ後で0.32%引き上げたこととなります。現状の外貨資産リスク (40%) に対する為替ヘッジ率は、6%で、全体のポートフォリオの内、ヘッジ後の外貨リスクは38%です。

パリミキ・ファミリーオフィス・マザーファンドの概況

純資産総額	16,530百万円	組入れファンド数	全23本
-------	-----------	----------	------

資産構成比率 (左: 国別、右: ファンド別)



組み入れファンドTOP5 基準価額の前月比

ピクテ・ゴールド (為替ヘッジ付き)	-0.47%
モーラント・ライト	3.23%
ポリマー日本株式	1.90%*
トリゴン	12.00%
コムジェスト世界	8.95%

※月初時点では未投資のため、投資開始日との騰落率を記載

浪花おふくろファンド

じっくりどっしり長期運用

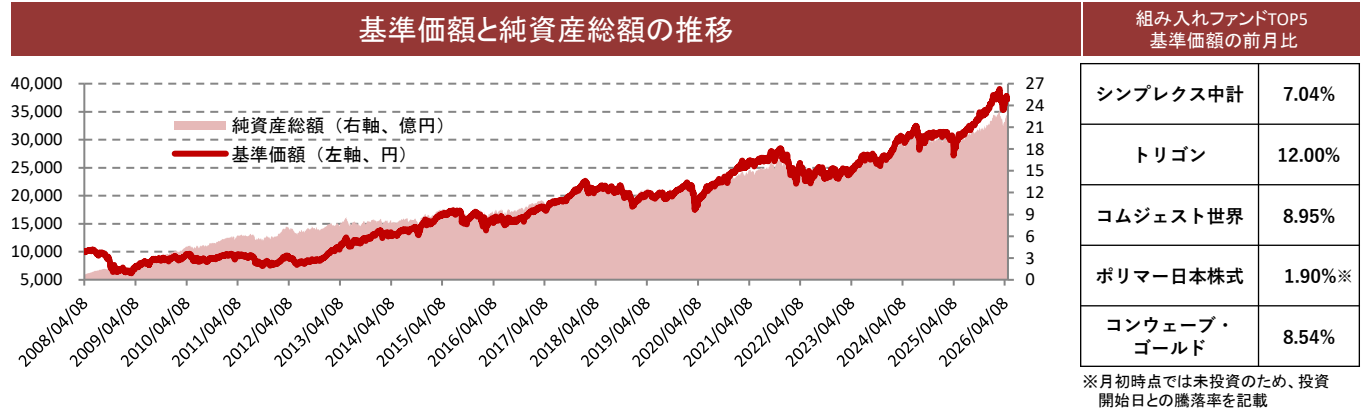
【4月の運用コメント】

基準価額は月間で+5.38%上昇し、年初来では+2.22%となりました。
 (1年リターン：25.51%、ボラティリティ(1年)：10.09%、シャープレシオ：2.46)

個別ファンドの騰落率については、上昇寄与したファンドは、東欧諸国株式のトリゴンが騰落率で+12.00%、コムジスト世界が同+8.95%、日本株式のシンプレクス中計が同+7.04%。下落の影響があったのは日本高配当ETFが騰落率で▲2.4%などでした。

4月中の売買は、新規組入れファンドのポリマー日本株式とグローバルなストックピックを行うトリニティ・ストリートを合計約12%購入し、その他ETFを新規で組み入れました。一方、日本株式ファンドや金鉱株式ファンドを一部売却しました。これによりキャッシュ比率は12.85%(前月比約▲14.5%)となりました。

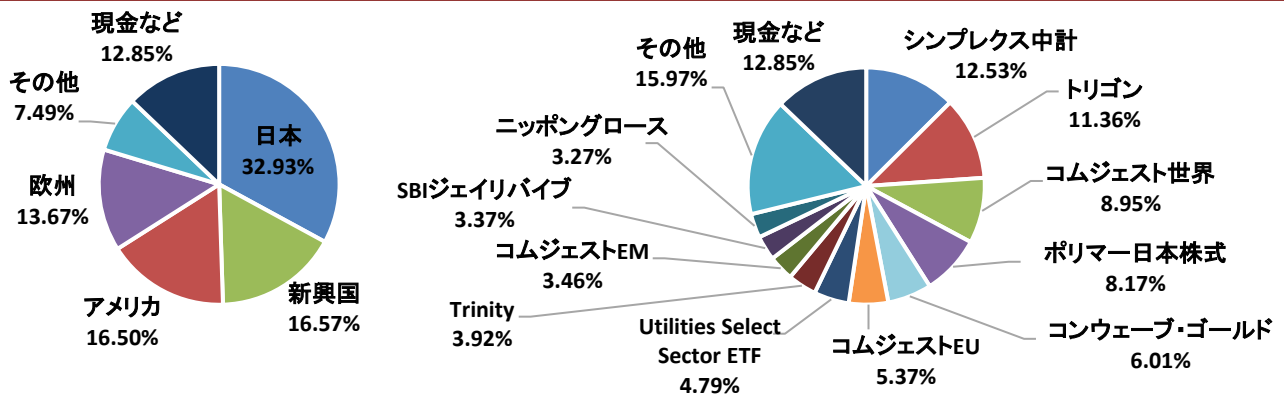
為替が、対ドルで約0.5円(+0.32%)、対ユーロでは約4円(+2.16%)円安へ推移したことにより、ポートフォリオのパフォーマンスをヘッジ後で0.44%引き上げたこととなります。現状の外貨資産リスク(51%)に対する為替ヘッジ率は8%で、ヘッジ後の外貨リスクは47%です。



浪花おふくろファンド概況

基準価額	37,324円	設定日	2008年4月8日
純資産総額	2,239百万円	信託期間	無期限
ボラティリティ(1年)	10.09%	決算日	毎年3月3日(休業日の場合は翌営業日)

資産構成比率(組入ファンド全19本)(左:国別、右:ファンド別)



期間別騰落率(%)

1ヵ月	3ヶ月	6ヶ月	年初来	1年	3年	5年	10年	設定来
5.38%	-1.26%	7.84%	2.22%	25.51%	51.23%	43.08%	131.14%	273.24%
					(複利年率) (14.74%)	(複利年率) (7.42%)	(複利年率) (8.73%)	(複利年率) (7.56%)

浪花おふくろファンドにかかわる費用

運用管理費用(信託報酬) 年0.99%(税抜0.90%)
 組入れ投資信託証券も含めた実質的な負担 年1.65±0.5%程度(税込)

コモファンド・浪花おふくろファンドにかかわる共通のその他費用・手数料

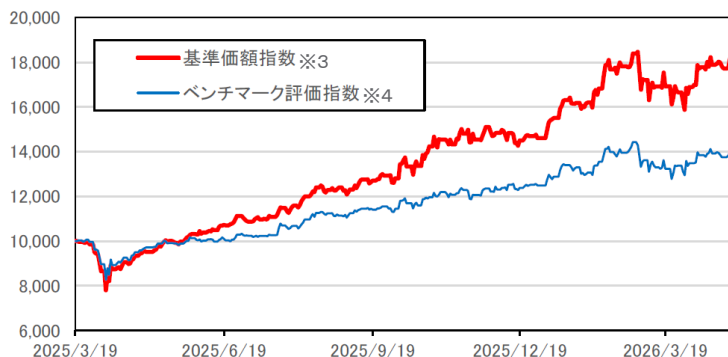
信託財産に関する租税、投資対象とする投資信託証券の売買に発生する売買委託手数料及びその手数料に対する消費税相当額等の費用、外貨建資産の保管等に要する費用は、お客さまの負担として、信託財産中から実費を負担します。

設定・運用・販売は株式会社バリミキアセットマネジメント/金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2727号
 ※比率は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

ポリマー日本株式アクティブファンド（適格機関投資家専用）

当ファンドは、日本の上場株式ヘトツプダウンアプローチと共にボトムアップで独自の着眼点による調査を行い、業種や時価総額に縛られずに投資先候補企業の選別を行います。
 ファンドマネージャーは、1993年に日生のアナリストとしてスタートし、日生、JPMアセットで“ザ・ジャパンファンド”のポートフォリオマネージャーとして17年に亘って運用してきました。当ファンドは転籍後2025年3月の設定ですが、ファンドマネージャーの運用に係る経験や実力を備えたファンドと判断しています。

<基準価額の推移(税引前分配金再投資ベース)>



<期間別騰落率(%) 年率換算前>

	基準価額※1	ベンチマーク※2	差異
1カ月前比	+13.56	+6.57	+6.99
3カ月前比	+11.30	+5.56	+5.74
6カ月前比	+23.88	+13.17	+10.71
1年前比	+89.19	+43.01	+46.18
3年前比	-	-	-
設定来	+80.26	+37.94	+42.32

※1:基準価額は、信託報酬控除後、税引前分配金再投資ベースのリターン。信託報酬は純資産総額に対して年率1.10%(税抜1.00%)の基本報酬と投資成果に応じた成功報酬を合算したものとします。

※2:ベンチマークは、TOPIX(配当込み)

※3:基準価額指数:信託報酬控除後、税引前分配金再投資ベースの累積リターンを、設定日の前営業日を10,000として指数化しています。

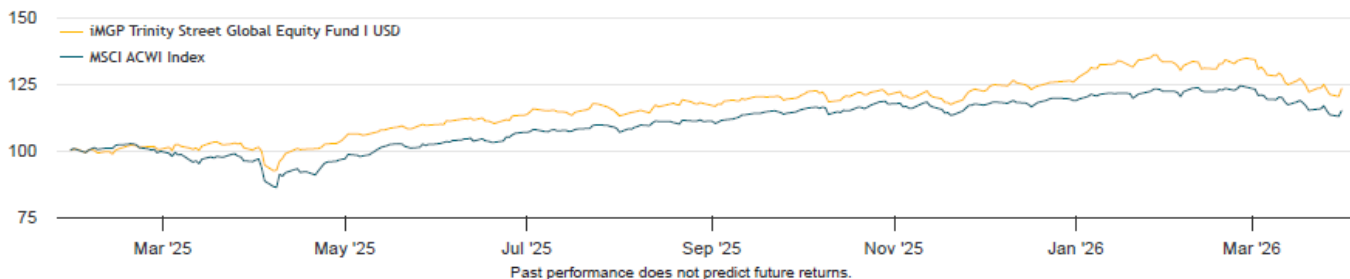
※4:ベンチマーク評価指数:ベンチマーク(TOPIX(配当込み))の累積リターンを、設定日の前営業日を10,000として指数化しています。

ポリマー日本株式アクティブファンド（適格機関投資家専用） 基準日2026年4月30日 マンスリーレポート より

iMGP Trinity Street Global Equity Fund

当ファンドは、世界中の株式を対象に、ファンダメンタルのボトムアップ分析に基づき、経営陣の交代、新製品の投入、買収・売却など、市場で過小評価されている「認識されていない変化」を遂げている企業の20~30銘柄へ集中投資を行います。それぞれ数十年の運用経験を持つ4名のポートフォリオマネージャーが各投資アイデアを出し合って議論の上、個別に投資決定します。集中投資ではあるものの、ファンドには金額上限、セクター別、国別など細かい独自ルールに基づいてリスク管理がされており、マクロ経済と個別企業の分析能力が非常に高いメンバーで運用されています。

Performance & risk measures



Monthly returns	Year	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec
2026	-1.9%	6.1%	1.1%	-8.5%	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2025	-	-	-0.1%	-0.3%	3.7%	5.5%	3.3%	0.8%	3.1%	2.0%	1.0%	1.5%	2.1%
2024	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2023	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2022	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2021	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

経営における三つの視点

先月のコラムで、人体をどのように捉えるかによって医療の在り方が大きく変わるといってお話をしました。興味深いことに、企業経営もまったく同じ構造をしています。医療が「化学」「生物学」「物理学」という三つの視点を統合することで進化していくように、企業経営もまた、複数の視点を重ね合わせることではじめて、その全体像が見え、大きく進化、発展していくのです。



① 利益最大化のシステムとしての企業——科学的アプローチ

近年、MBAをはじめとするビジネス教育の場で盛んに取り上げられてきたのが、科学的な経営手法です。企業を「さまざまな経営資源が集積したシステム」として捉え、その資源を最大活用することによって利潤の最大化を目指すアプローチです。データ分析やKPI、財務指標を駆使し、効率性と再現性を高めるこの手法は長らく経営の主流であり、経営コンサルやファンドが優秀なプロ経営者を輩出しながら、多くの企業再建や成長を実現してきました。投資家の存在感が増す現代においても、その有効性は依然として高く、科学的経営は、経営を「再現可能な技術」へと昇華させた点で大きな功績を残しています。

② 運命共同体としての企業——人間的アプローチ

しかし一方で、企業を顧客・社員・取引先・地域住民といったステークホルダーによる「運命共同体」として捉えることも不可欠です。信頼関係や組織の歴史、働く人々のモチベーションといった非数値的な要素が、経営の成否を大きく左右します。同じ戦略でも、それを実行する人間の状態によって結果は大きく変わる。この現実を直視することが、人間的アプローチの出発点です。人材の流動化と価値観の多様化が進む現代において、「会社が個人の意味や価値観に応える」姿勢はもはや必須となっており、このアプローチの重要性はますます高まっています。

③ 存在意義を問われる企業——「アート」が導くこれからの経営

そして三つ目が、理念的アプローチです。「この企業は何のために存在するのか」「社会にどのような価値を提供するのか」という根源的な問いに向き合う視点であり、ここで鍵を握るのが「アート」の力です。アートとは装飾やデザインではなく、「何を価値あるものと定義するか」を問い、それを人の心に届く形で表現する力そのものです。

物質的な充足と情報の最適化が行き渡った現代では、品質や機能だけでは人々の選択を決定づけられなくなっています。「それにどんな意味があるのか」「自分の人生においてどんな価値を持つのか」という内面的な基準こそが、選択を左右する時代になりました。

これからの経営に求められるのは、三つの視点の統合です。科学的に正しく運営されることを前提としながら、人間的なつながりを育み、さらに社会的・理念的な意味を明確に打ち出す。医療が物質から生命へ、生命からエネルギーへと理解を拡張してきたように、経営もまた「効率」から「人間」へ、そして「意味」へと進化していく。その羅針盤として、「アート」の果たす役割はますます大きくなるはずで



(株)パリティホールディングス
代表取締役会長
多根 幹雄



新しい「チームあいのり」メンバーのご紹介

この度、パリミキアセットマネジメントの代表取締役副社長に就任いたしました、恒吉 裕司（つねよし ゆうじ）と申します。

私はこれまで、パリミキの店舗、そして本部経営において一貫して「お客様体験の向上」を追求してまいりました。お客様が何を求め、どのような未来を描こうとされているのか。その「声」に真摯に耳を傾け、お客様との深い信頼関係を築くことに心血を注いでパリミキの代表取締役社長として邁進してまいりました。

これからは、アセットマネジメントという新たな視点から、皆さまの大切な資産を「守り、育てる」ことで、皆さまの人生にさらなる「ときめき」と「安心」をお届けしたいと考えております。小売の最前線で培った「お客様第一」の精神と、アセットマネジメントのプロフェッショナルリズムを融合させ、チームあいのりの皆さま一人ひとりの「想い」に寄り添った運用・サービスを実現してまいります。

今後、皆さまと直接お会いし、お話を聞かせていただける機会を楽しみにしております。私を見かけました折には、ぜひお気軽にお声がけいただければ幸いです。

今後とも、何卒宜しくお願い申し上げます。

代表取締役副社長 恒吉 裕司



チームあいのり

海に浮遊する神秘



5月上旬とは思えない連日の高い気温が、早い夏の訪れを予感させるこの頃。夏といえば海水浴ですが、海水浴中のクラゲに関する注意喚起が毎年のようにニュース番組で取り上げられています。

このように「海の厄介者」として扱われるクラゲですが、先日足を運んだ水族館では幻想的なライトアップとともに水槽を舞い、来場者を魅了していました。今回はそんなクラゲの中でも、「不老不死」という神秘的な生態をもったベニクラゲご紹介いたします。

クラゲはプランクトンの一種で約6億年も前から海に存在し、その体の95%ほどは水分でできています。プランクトンというと目に見えないような小さな生物のイメージですが、遊泳能力がなく水中や水面を浮遊する生物を総称してプランクトンと呼ぶそうです。一般的にクラゲの寿命は1年ほどですが、ベニクラゲは「immortal jellyfish（不死のクラゲ）」という名前のおり不老不死という特徴をもっています。

彼らは寿命を迎えそうになると、ポリプと呼ばれるクラゲの幼体に戻り、また同じ遺伝子をもった大人のクラゲへと成長しはじめます。この若返りは何度でも行うことができ、さらに、若返りの際にはまるでクローンが次々と増えていくかのように、ポリプから複数のクラゲに分かれていきます。

このように、夢のような特性をもったベニクラゲですが、直径数ミリ～1cmほどの小さな体は常に捕食者に狙われており、捕食された場合はもちろん若返ることはできません。

彼らの不老不死の仕組みはまだ解明されていない部分が多いそうですが、いつか医療への応用など人類の希望となる日がくるかもしれませんね。

パリミキアセット運用報告会 2026春

2025年10月から2026年3月にかけてのマーケットは、政治イベント、地政学リスクや経済における懸念材料が錯綜し、非常に変動率の高い展開となりました。

今回の定例報告会では、こうした非常に盛りだくさんのトピックがある中、私どもがどのように考え、対応し、運用してきたかをご説明いたします。

あわせて、4月以降直近の内容や、今後の展望などについても詳しくお話し、皆さまに当ファンドの運用方針へのご理解を深めていただく機会にしたいと考えております。



講師
チーフインベストメントオフィサー
宇野 隆一郎

5月23日(土) 13:00～14:00

会場

参加費用等について

パリミキ アメリカ村店2F サロン

定員：30名

大阪府大阪市中央区西心斎橋2丁目10番30号
蔵人西心斎橋ビル2階
(大阪メトロ「心斎橋駅」7番出口 徒歩5分)

参加費：無料

5月27日(水) 18:30～19:30

会場

参加費用等について

東京スクエアガーデン 京橋環境ステーション

定員：30名

東京都中央区京橋三丁目1番1号 東京スクエアガーデン 6階
京橋環境ステーション内 研修室
(東京メトロ銀座線「京橋駅」3番出口直結)
(東京メトロ有楽町線「銀座一丁目駅」7番出口より徒歩2分)
(都営浅草線「宝町駅」A4番出口より徒歩2分)

参加費：無料

お申込みにつきましては、HPでご案内いたしております

「春のたねころ山で、心も身体もリフレッシュ」を開催しました

2026年4月18日、静岡県伊東市・たねころ山農園にてイベントを開催いたしました。多くのお客様にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。
またのご参加を心よりお待ちしております。

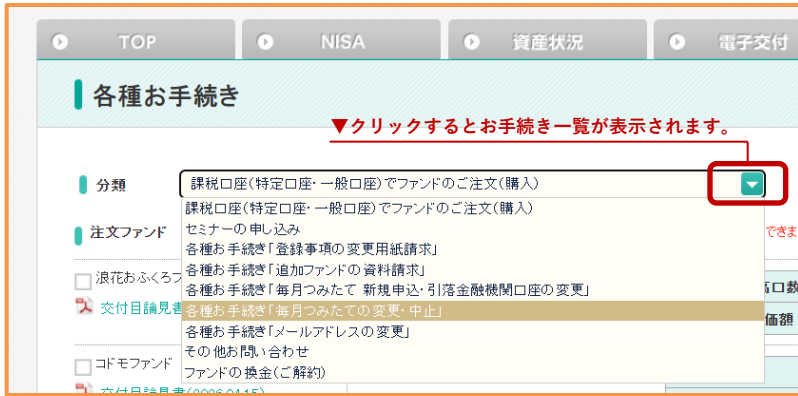
今回のプログラム： <たけのご掘り> <メタロン体験> <薬膳キャンプ飯> <マインドフルネス>



お客様サポートチームからの大切なお知らせ

毎月つみたてサービスの金額変更・中止手続は、お客様マイページからが便利です！

最近お問い合わせの多い、毎月つみたてサービスの金額変更方法についてお客様マイページからのお手続きをご紹介します。



①お客様マイページにログインし、各種お手続きをクリック

②各種お手続き「毎月つみたてサービスの
変更・中止」を選択

③入力画面に従って変更内容を入力し、
「送信」

④後日郵送されるお客様控えにて、変更
内容を確認

※マイページへのログイン方法についてご不明な点等ございましたら、お客様サポートチームまでご連絡ください。

ファンドにかかわるリスク

当ファンドは、流動性のある国内外の株式等に投資する投資信託証券に投資しますので、基準価額はその影響を受け変動します。
投資信託は預貯金と異なり、投資元本が保証されているものではありません。投資による利益および損失は、すべて受益者（投資者）の皆様に帰属します。

基準価額の主な変動要因としては、価格変動リスク、信用リスク、流動性リスク、為替変動リスク、カントリーリスク等があります。リスクについての詳細は投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

ファンドにかかわる費用

当社が扱う投資信託に、購入・換金手数料および信託財産留保金はありません。

当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は株式会社パリミキアセットマネジメントが運用するファンドの運用状況をお知らせするために作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）等をお渡ししますので必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。
- 当資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料中に示された意見等は、作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。
- 投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 当社でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 当資料中に示された数値は、作成基準日現在において入手可能なデータを参照し、弊社にて計算しております。

毎月つみたてスケジュール

次回引落日は、**2026年6月5日（金）**です。

2026年6月分金額変更・中止・再開締切日・・・

5月25日（月）

2026年7月分新規・口座変更締切日・・・

6月3日（水）

※毎月つみたてサービスの金額変更・中止・再開については、お電話・マイページ上（再開を除く）でも承っております。再開につきましては、書類でのお手続きとなりますので、お電話・マイページ上・ホームページ上にて用紙をご請求ください。

株式会社パリミキアセットマネジメント
お客様サポートチーム
(受付時間：平日9:00～17:00)
お客様専用通話料無料ダイヤル:0800-5000-968
E-mail: support@pmam.co.jp

